

Market Flash

～中国100年マラソン～

2017.10



日本アルプス電子株式会社
NIHON ALPS ELECTRONICS CO.,LTD.



Market Flash

～世界覇権100年戦略～ China 2049



習近平は「中国の夢」ということをよく口にする。

「中国の夢」とは・・・？

習近平は総書記就任後の初めての演説の中で、端的な言葉で未来を示唆していた。「発展が何よりも重要」である、と。そして、「中国の夢を実現するため、常に物質的及び文化的基盤を突き固めなければならない」と付け加えた。習は世界を和諧させるということを目標に掲げた。

この言葉だけでは特に害はなさそうであるが、中国でいう「和諧」の地政学的な意味は「一極支配」であり、「中国の夢」とは、世界で唯一超大国、つまり、経済的、軍事的、文化的に無敵になることである。

このことについて書かれた著書が「China 2049」(秘密裏に遂行される「世界覇権100年戦略」)である。著者は、ハドソン研究所中国戦略センター所長で国防総省顧問のマイケル・ピルズベリーである。彼はニクソンからオバマ政権で対中国の防衛政策を担当していた人物で、この本は、その彼がもともとは親中派の人物で知られていたが、中国の軍事戦略研究の第一人者となり、親中派の袂を分かち、世界の覇権を目指す中国の長期的戦略に警鐘を鳴らすようになるまでを記録した本である。彼は、ニクソン政権以来、30年にわたって中国の専門家として政府機関で働いた。したがって他の誰よりも中国の軍部や諜報機関に通じていると断言している。

中国からの亡命者の話に基づく裏付けや中国の孫子の教えなど古代の「兵法36計」などの教えを学びその中から中国の真意を見抜こうと試みたものである。

その内容について、どう判断していいのか、真実なのかどうかは全く知ることができないが、最近の中国の動きをみると覇権への戦略としか理解できないものが多いように思える。

この本に対する中国側から見た見解を知りたいものである。

それでは、この本の概要を簡単にまとめてみた。

この本で一番言おうとしているのは、米国政府への忠告である。

今まで米国では、中国は決して米国を追い越すことは不可能で、中国もそのようなことは全く考えていないと思われてきた。しかし、中国は戦後100年後の世界覇権を目標にしたたかに、誰にも気づかれることなく、しかし、着実に世界覇権を成し遂げてきている。米国は、これまで中国語で中国の昔の文献を読むこともなく学ぼうとしてこなかったため、本当の中国の考えを知ることができなかったのである。

中国の古史を学び、中国の真意を知り、対中戦略を立てるべきであるというのが趣旨である。

米国のこうした中国に対する理解不足について次のように記述している。

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



「私たちアメリカ人は、中国がアメリカを見るようには彼(か)の国を見ていない。それが数十年続い
てきた状態だ。・・・

このずれの原因は、少なくとも部分的には、『**瞞天過海**(まんてんかかい一天を瞞きて、海を過る(てんをあざむきて、うみをわたる))』という古い格言にある。古代中国の「兵法36計」の言葉で、「ありふれた風景に隠れ、敵の油断を誘う」という意味だ。その書に語られている兵法はすべて、**自分より強い敵を、相手の力を利用し、戦いに巻き込まれていることさえ気づかせないまま倒すことを意図している。**」

「中国を研究するアメリカ人の多くは、**中国を西洋帝国主義の気の毒な犠牲者とみなしがちだ**。それは中国の指導者が、積極的に後押しする見方である。・・・西洋と日本がいかにか中国を不当に扱ってきたかを強調し、「君たちの世代は何らかの贖罪をすべきだ」と示唆した。教科書の多くにも同様の主張が記されてきた。

このような**中国を助けたいという願望と、善意に満ちた犠牲者という中国の自己イメージを妄信する傾向が、アメリカの対中政策の軸となり、中国分析の専門家による大統領などへの提言にも影響を与えた。**」

としている。そのほか、中国語の言葉の複雑さから翻訳にも間違っただあるいは曖昧な表現になってしまっていることが誤解を生む原因と主になっていると述べている。

そして、ニクソン大統領が中国との国交回復に動き出して以来、8人の大統領(オバマ大統領まで)の外交政策は、それぞれ違うものではあったが基本的には中国と連携して、その発展を助けることが大切だという考えに基づいていたのである。

「**中国は、私たちと同じような考え方の指導者が導いている。脆弱な中国を助けてやれば、中国はやがて民主的で平和的な大国となる。しかし中国は大国となっても、地域支配、ましてや世界支配を目論んだりもしない**」と考えていた。

こうした仮説はすべて危険なまでに間違っていたと著者は主張する。その間違いが、現在、日に日に明らかになってきているという。

その間違っていた前提とは、



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



<間違っていた前提1> つながりを持てば、完全な協力がもたらされる

中国とのつながりを持てば、広範な政治的問題について協力を引き出すことができると信じていた。

しかし、戦争で荒廃したアフガニスタンの再建や経済発展を妨げたり、スーダンや北朝鮮の反欧米政府にライフラインを提供し、アメリカ政府の行動を妨げたりしている。

<間違っていた前提2> 中国は民主化への道を歩んでいる

辛抱強く待っていれば、アメリカが圧力をかけなくても、中国の市や町で民主的な選挙が行われ、やがて地方選挙、さらには国政選挙が行われるようになると信じ切っていた。

共産党による一党支配は変わらず、最近の中国では企業、個人、情報すべての規制はますます強化され、民主化の動きはことごとくつぶされている。

<間違っていた前提3> はなかい花、中国

中国の成長はやがて止まり崩壊するという考えが支配していた。その「やがて起きる中国の崩壊」という考え方に執着し、中国の苦境を心配しているうちに、その経済は倍増どころではない規模で成長を遂げてきている。

<間違っていた前提4> 中国はアメリカのようになることを望み、実際、その道を歩んでいる

アメリカ人は傲慢にも、すべての国はアメリカのようになりたがっている、と考えがちだ。

中国とアメリカでは戦略感が違うということに気が付いていない。

<間違っていた前提5> 中国のタカ派は弱い

中国にもタカ派とハト派がいて、タカ派は弱いとみられてきた。しかし、タカ派が、北京の指導者を通じてアメリカの政策決定者を操作し、情報や軍事的、技術的、経済的支援を得てきた。そして、そのタカ派の計画こそが「100年マラソン」と呼ばれるものであった。

「100年マラソン」「中国の夢」とは何であろうか？



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



中国の夢

習近平が描く「中国の夢」は、決して彼が考え始めたものではなく、1949年に共産党が権力を掌握して以来、共産党が渴望してきたことである。「習近平は中国共産党書記長に就任してすぐに、それまで隠されていた中国の野望を認めた。最初のスピーチで、かつて中国の指導者が公式の演説で述べたことのない「**強中国夢**」(強い中国になるという夢)という言葉の口にしたのだ。」

「習は、**2049年**を、その夢が実現する年としている。**毛沢東が中国の指導者となり共産主義国家を樹立してから100年目に当たる年だ。**」

習近平が「強中国夢」といったのは、たまたまでもなければ、不注意からでもない。人民解放軍の退役軍人で、中央軍事委員会弁公庁秘書だった習は、中国軍の「超タカ派」と密接に結びついている。習主席の演説を聞いた何人かの中国人から聞いて分かったことだが、中国の大学で教育を受けた人や軍人は、習主席の「強中国夢」という発言を聞いてすぐ、その意味を理解したそうだ。・・・・」

この「強中国夢」という言葉は、2010年に出版された**劉明福**という人が書いた「**中国の夢**」という本の内容を指すようである。中国ではベストセラーになり、「**100年マラソン**」という言葉も出てきている。その本には、**どうすれば中国はアメリカに追いつき追い越し、世界の最強国になれるかが書かれている。ソ連がアメリカを凌駕できなかった理由を分析し、中国が採るべき8つの方法を列挙している。**そして、中国の夢は、中国が世界のリーダーシップを握るには、国際的レベルの軍事力が必要であると説く。**21世紀における中国の最大の目標は、世界一の強国になることだと述べている。**

習近平はこの本の内容の通り中国を世界最強の国にすることを夢としている。

中国はかつてソ連とを凌駕することを目的に米ソの冷戦状態を利用した。つまり、米国にすり寄り利用してソ連を凌駕した。そして、次はアメリカを追い越そうとしている。そして、これまでのことはアメリカには悟られないよう秘密裏に行われてきたのである。

ニクソンが中国との国交回復を目指していたころ、「当時、中国経済は活気がなく、GNIはアメリカの10パーセント程度だった。中国がアメリカを追い抜くことを夢見るなどというのは、非現実的なことのように私には思えた。そしてワシントンの公職にある人々はみな、中国が新しいダンスの相手を求めていることを知っていた。その相手になるかどうか、ニクソン大統領は決断を迫られた。こうして中国との新しい関係が始まり、それは、私たちが考えもしなかった重大な結果をもたらすことになった。・・・」



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



「中国人はかつてソ連を利用したように、アメリカを利用しようとしていた。米中以外の第三のライバル国に協力して対抗すると約束しておきながら、自分が前に進むための道具にする。これが冷戦中に中国が進めたマラソンのやり方だ。ソ連のアメリカに対するライバル意識を利用して支援を引き出し、それがうまくいかなくなると今度は、アメリカに対ソ協力を申し出て味方につけた。これもまた兵法の戦略の一つだ。『借刀殺人』つまり、他人の力を利用して、敵を倒すのである。」

それから40年後、習近平は先ほど記したように「強中国夢」という言葉を演説の中で使ったのである。すでにアメリカを追い越すことが実現身を帯びてきた現在において、野望を隠すのではなく公言したのである。

こうした「中国の夢」世界覇権の夢はどこから生まれたのだろうか。

北京の天安門の端に、1949年に毛沢東の命を受けて作られた、ビルの10階ほどの高さのオベリスク(次ページご参照)が立っている。これは、人民英雄記念碑とされているが、「実際には、ヨーロッパの列強に強いられた『百年の屈辱』による『中国の嘆き』の象徴とみなされている。1840年の第一次アヘン戦争では、清朝との貿易摩擦から、英国海軍が中国の港を占領し、破壊した。オベリスクに刻まれた碑文と彫り物は、その後の**中国の百年の歴史(少なくとも共産党政権から見た歴史)**を、人々の抵抗と西洋による占領、そしてゲリラ戦の末に1949年に毛沢東が輝かしくも中央人民政府主席に就任し、**中国の屈辱を終わらせた**、と説明する。」

こうした歴史的背景をベースに毛沢東は、中国が存続し続けるには、過激な長期戦略によって中華民族の独自性を守らなければならない、と考えるようになった。こうして**中国共産党の戦略思考**は、「**容赦ない競争世界における生存競争**」という概念に支配されるようになった。

とこの著書では説明している。



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



人民英雄紀念碑

人民英雄紀念碑(じんみんえいゆうきねんひ)は中華人民共和国北京市の天安門広場に位置する中国革命の英雄の顕彰碑。1958年につくられた。表面(北面、従って天安門からみえるのはこちら側)には毛沢東による金文字(昔は英雄たちの血をあらわす赤文字だった)の「人民英雄永垂不朽」(人民の英雄は永遠に不滅だ)の揮毫、裏面(南面)には周恩来による顕彰文の揮毫(繁体字・簡体字混合)が刻まれている。裏面の顕彰文(原文まま)は

人民英雄紀念碑

三年以来在人民解放战争和人民革命中牺牲的人民英雄們永垂不朽

三十年以来在人民解放战争和人民革命中牺牲的人民英雄們永垂不朽

由此上溯到一千八百四十年从那时起为了反对内外敌人争取民族独立和人民自由幸福在歷次鬥争中牺牲的人民英雄們永垂不朽

一九四九年九月三十日 中國人民政治協商會議第一屆全体會議建立」

本文の大意は「ここ3年来の人民解放戦争と人民革命によって犠牲になった人民の英雄達は永遠に不滅だ！(1946年からの国共内戦を表す。)

ここ30年来の人民解放戦争と人民革命によって犠牲になった人民の英雄達は永遠に不滅だ！(1919年の五四運動以降の抵抗運動・抗日戦争を表す。)

ここから1840年まで溯った時から内外の敵に反対し、民族の独立と人民の自由と幸福を勝ち取るための毎回の闘争の中で犠牲になった人民の英雄達は永遠に不滅だ！(1840年のアヘン戦争以降の諸抵抗運動(太平天国の乱や義和団の乱・辛亥革命等を含む)をあらわす。)」

台座部分には中国近代史における主な事件(アヘン戦争の原因となった1839年の林則徐の広東省虎門でのアヘン焼却事件「虎門銷煙」、太平天国の乱のきっかけになった1851年の「金田蜂起」、辛亥革命のきっかけとなった1911年の「武昌蜂起」、1919年の北京での「五四運動」、1925年の上海での労働者のデモにイギリス軍が発砲した「五・三〇事件」、1927年に江西省で起こった国共内戦の始まりであり中国人民解放軍の誕生とされる「南昌蜂起」、1937年からの「日中戦争」、1946年からの第2次国共内戦の一つで中国共産党の勝利を決定的にした1949年4月の「長江渡江戦争」)のレリーフが彫られている。



* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



Market Flash

～世界覇権100年戦略～ China 2049



さて、これまで「中国の夢」についてみてきたが、この本では、ニクソン大統領時代から今まで各大統領の時代においていかに中国がうまくアメリカをコントロールしてきたか、について詳細に記されている。ここでは省略するが、中国の100年マラソンにおいて、その戦略が最も変化(変化というか強化された)したポイントはやはり**天安門事件**である。あの事件から中国はこの戦略の実行の速度を急速に早めたように思う。そして、今では日本においても、中国のこうした野望がようやく理解できるようになってきたのではないだろうか。

天安門事件の中国に与えた影響

ニクソン大統領と毛沢東による国交回復以来、中国においては**アメリカを注目すべき輝かしい存在として描いていたことは間違いないだろう**。しかし、それも「天安門事件」を境に、タカ派はそれを危険な過ちだったと断じ、政治局の指導者に方針転換をさせた。

1989年当時、アメリカではブッシュ大統領が就任し、中国と建設的な関係を築くことに、一方ならぬ関心を寄せていた。1989年2月、大統領就任後初めての外遊で、北京を訪れた。

ブッシュ大統領は当時、「**中国には民主主義の風が新たな希望を創造し、自由市場のパワーが新たな力を解き放ちつつある**」と演説で述べていた。天安門では学生たちが民主主義を求めて集会を開いていた、**その光景を見ると、中国の民主化も近いのではないかと思わせたのである**。米国のほとんどの人がそう信じていただろう。

このような樂觀に水を差す事件は、ブッシュの訪中後数か月で起こった。学生たちと約100万人のデモ参加者は、天安門に集結し、7週間にわたって、演説や報道の自由を訴え、腐敗政治を批判し、より開かれた政府を求めた。彼らは「独立宣言」のコピーをかざし、ビルの3階の高さがある「民主主義の女神」を建てた。

5月に鄧小平は戒厳令を発令し、北京に25万人の兵士を集結させた。そしてデモ隊が解散を拒むと、洗車と兵士を出動させた。学生が戦車の前に立ちはだかり、自らの命を落とした。そして場面は日本人には今も目に焼き付いている。

しかし、中国では、革命家の多くは終生の自宅軟禁を宣告された。一部の高官は西側に亡命した。政府による検閲は強化され、**新聞や歴史からこの抗議行動の事実が削除された**。そのような規制は、そのうちなくなるだろうという外国の甘い味方はことごとくはずれ、本当に歴史からは抹消され、それを知らない世代が数多くいるということは驚きである。

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



この天安門事件による米中の対応、考え方は全く違うものであった。

「恐ろしい出来事にもかかわらず、アメリカの対中政策は、すぐには変わらなかった。…ブッシュ大統領は、ニクソンの『関係を中断してはならない。起きたことは手際が悪く、遺憾でもあるが、長い目で見なければならぬ』という助言に従った。ブッシュの日記によると、ニクソンは『中国とは長期にわたってよい関係を維持すべきなので、貿易を停止したり、それをにおおす行為をすべきではない』と考えた。ブッシュは天安門に集まった学生を『ありがちなデモ隊の一例に過ぎない』と呼んでいた。」

「しかし、中国の見方は違っていた。鄧小平にとって中国で起きた学生運動は、かねてより著名なナショナリストが警告していた、民衆の間で親米感情が高まるとい危険だけでなく、アメリカが中国にもたらしたダメージを体現するものだった」

「党内部では、あのような抗議行動が起きたのは、共産党打倒を目論むアメリカが、心理作戦を実行して導いたからだと説明されるようになった。本来、偏執的だった鄧小平は、この偽りの主張を信じ、アメリカが、『宣伝組織を活用して、中国のいわゆる民主活動家、いわゆる反体制派、実のところは国の唇を扇動し、けしかけ、その気にさせた』と書いている。鄧小平はアメリカが中国共産党を打倒しようとしていると本気で信じていたのだ。」

「天安門事件が自由化への潮流の崩壊を招こうとは、だれも予想していなかった。直後に鄧小平は保守派の一人、江沢民を総書記に任命し、天安門事件を機にナショナリストが主張する「精神汚染」という論理を利用するようになった。…人民解放軍と政治局にいた改革志向の人々を、組織的に追放し始めた。多くのアメリカ人が衝撃を受けたのが、改革派の党の指導者、趙紫陽が終生の自宅軟禁に置かれたことである。」

こうした事件後の動きに接してもブッシュ大統領は中国に対する見方を変えることはなかった。これが、中国の本当の真意を見抜けないまま今日まで来てしまった原因であろうと著者は考えている。しかし、ブッシュの後を継いだクリントン大統領は、中国の擁護者であるブッシュ氏を痛烈に批判し、どの大統領より強硬な対中路線を敷いた。それに対し、中国はアメリカ内での友人づくりを強力に進めていく結果となった。それがまたアメリカ内での中国の見方を誤らせる減になったと著者は考えている。この詳細については本の中に詳細に述べられている(歴代の大統領の中国に対する行動と考え方はすべて本の中で述べられている)



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



さて、中国の夢についてももう少し触れておこう。

<100年マラソン戦略>

「100年マラソンの戦略は、その大半が戦国時代の教えを元々タカ派が構築したものだ。100年マラソンの土台となっている中国の戦略の9つの要素は以下の通りである。」

- ① 敵の自己満足を引き出して、警戒態勢を取らせない
- ② 敵の助言者をうまく利用する
- ③ 勝利を手にするまで、数十年、あるいはそれ以上、忍耐する
- ④ 戦略的目的のために敵の考えや技術を盗む
- ⑤ 長期的な競争に勝つ上で、軍事力は決定的要因ではない
- ⑥ 覇権国はその支配的な地位を維持するためなら、極端で無謀な行動さえ取りかねない
- ⑦ 勢いを見失わない
- ⑧ 自国とライバルの相対的な力を測る尺度を確立し、利用する
- ⑨ 常に警戒し、他国に包囲されたり、騙されたりしないようにする

これを見て、ああなるほどと思う点もあり、ここまでは・・・と思う点もある。しかし、いずれにしても中国は思慮深く、その真意は読みにくいと言えるのではないだろうか。

また、今回の共産党大会において習近平が「中華民族の偉大な復興という中国の夢」という言葉を何度も繰り返し演説の中で強国への夢を語った。これは、経済的にも世界第2位とアメリカに肩を並べ、追い抜くことが現実となってきた今、これまでの忍耐を破り、堂々と主張して「勢」を失わせない発言で、2049年までは最後の仕上げに入っていくような意味に感じた。

習近平は、一方で、「永遠に覇権を唱えず、拡張もしない」と言っているところは、まだ「警戒」しているということであろう。しかし、実態は「正当な国益を決して放棄しない」と主張し、国際法違反とされても自国の主張を通そうとする点は、やはり覇権を目的としているということではないだろうか。



Market Flash

～世界覇権100年戦略～ China 2049



中国のWTO加盟

中国のこの経済発展には大きな節目があった。それは、WTOへの加盟である。

1950年代の中国は、世界最貧国の一つだった。当時の国民1人あたりのGDPは、工業化が始まった1820年代のヨーロッパやアメリカよりも低かった。1975年になっても、1人あたりの所得は世界の最低レベルであった。中国経済に対するアメリカの予測も全て悲観的であった。

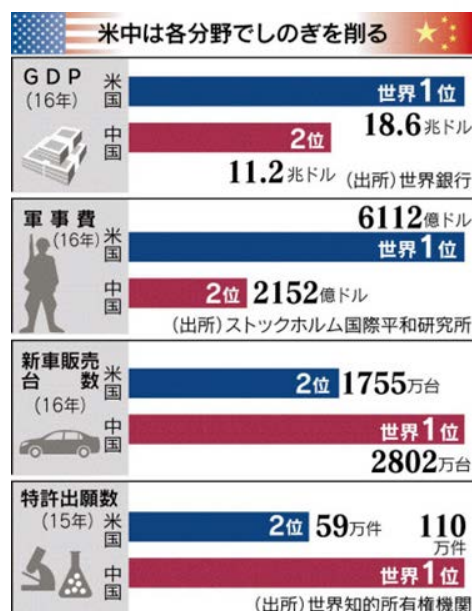
「鄧小平は現実的な人間で、1944年にブレトン・ウッズで策定された第二次世界大戦後の世界の経済秩序において、マルクス・レーニン主義に頼るだけでは不十分だと認識していた。アメリカやその他の先進国に追いつくには、WTOに加わり、国際通貨基金や世界銀行から融資を受ける必要があるとわかっていたのだ」

「中国は、WTOに加わればとてつもない利益を得ることがわかっていた。しかしアメリカ人がそれをさせるだろうか。2001年にWTOに加わったとき中国は、加盟国政府は直接的であれ、間接的であれ、国営企業の商業的決定に関与してはならないという、WTOの条件を受け入れた。ところが中国はこの契約を守らなかった。…」

現在の中国、特に習近平体制になってからの中国共産党の独裁は強化され、先月のレポートで見たように国営企業ばかりでなく一般企業に対してまでも、共産党に従う規定を入れさせるようになっているのである。中国はアメリカが思う資本主義とは全く違う方向に進んでいるのである。

この中国のWTO加盟にあたっては、やはり中国はしたたかにアメリカの議員を取り込んでいた。

「1995年から2000年までの間に中国がついた嘘でアメリカの連邦議会を説得し、恒久通常貿易関係(PNTR)を中国に供与させ、WTO加盟への道を開かせた。…中国の指導者が、WTO加盟を問う投票で賛成してくれた人々を抜かりなく支援し、自国の重商主義的経済戦略を暴く情報をひた隠しにした…」
そして、2000年5月に中国のWTO加盟が上院下院で承認された。



* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



「他人のエネルギーと勢いを自分の強みに代える『無為』と『勢』の教えに基づき、中国は欧米から最高の技術を借りて、株式市場、借入資本市場、投資信託産業、年金基金、政府系投資ファンド、通貨市場、外国の参加、国際主義中央銀行、住宅ローンとクレジットカード、自動車産業を開発・育成した。いずれも、世界銀行のような公共機関や、ゴールドマン・サックスのような民間企業の積極的な指導に助けられた。その一方で、共産主義政府は、欧米の技術や知的財産を盗む秘密の計画を許可し、奨励した。結果、偽造や模造による収益がGDPの8パーセントを占めるまでになった。」

「過去2世紀にわたって中国の指導者たちは、中国は個人の財産権や自由市場を伴う経済の自由化へ向かっていると、世界に信じさせてきた。……1978年以降、中国は世界銀行とその他の欧米の機関の援助により、精力的に近代化を推し進め、目覚ましい成功yを収めた。そして30年以上にわたって、その経済はコンスタントに成長し続けている。小さな変動はあったものの、中国経済は世界平均のおよそ3倍の速度で成長した。2001年以降、年間成長率は平均で10, 1% (2014年までの平均) に達する。1980年の名目GDPは約700億ドルだったが、2011年には7兆ドルを超えた。今やアメリカに次ぐ世界第二位の経済大国になっている。……」

欧米は、中国は資本主義。自由市場経済に向かっていると称賛した。しかし、中国にそんなつもりは全くなかった。」

このように欧米の力を借りて成長してきた中国は、欧米の見方とは違って、自国主義、共産主義を貫き、中国の力を世界に拡大していった。中国に来る外国企業に対しても中国の規制を強制し、それに反するものは即刻退去を命じている。中国市場に参入したい企業は中国政府の言いなりになるしか中国で生きていくすべがないのである。

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



Market Flash

～世界覇権100年戦略～ China 2049



こうした中国の夢の実現の先にはどんな世界観が待っているのだろうか。

この本では、「**2049年の中国の世界秩序**」と題して、その先の世界観を次のように記している。

「もし中国政府が優先事項を堅持し、同じ戦略を続け、毛沢東が政権を取って以来、大切にしてきた価値観に固執するものであれば、中国が形成する世界は、私たちが今知っている世界とは大いに異なるものになるということだ。」

- <危機①> 中国の価値観がアメリカの価値観にとってかわる
 - <危機②> 中国はインターネット上の反対意見を「和諧」する(中国の意味する「和諧」とは、「一極支配」である)
 - <危機③> 中国は民主主義に反対し続ける
 - <危機④> 中国はアメリカの敵と同盟を結ぶ
 - <危機⑤> 中国はエアポカリプス(大気汚染による世界終末)を輸出する
 - <危機⑥> 中国の成長戦略は深刻な水の汚染と枯渇を引き起こす
 - <危機⑦> がん村
 - <危機⑧> 欺く者が勝つー中国はナショナル・チャンピオンを野放しにする
- 中国は、近代国家が貿易と海外投資において順守するルールを何十年にもわたって無視し、独自のルールで行動してきた。知的財産権の盗用、ハッキングの横行などを野放し状態にする。
- <危機⑨> 中国は国連と世界貿易機関を一層弱体化させる
 - <危機⑩> 中国は営利目的で兵器を量産する

「もし中国の夢が2049年に現実になれば、中国中心の世界は独裁政治を助長するだろう。多くのウェブサイトが、欧米を中傷し中国を称賛する偽りの歴史で埋まる。発展途上国が『成長が先、環境対策は後』という中国のモデルを採用するにつれて、食の安全や環境保護はますますないがしろにされ、より多くの国で大気汚染が進む。環境破壊が進むと、種が失われ、海面が上昇し、がんが蔓延する。国際機関の中には、周知的な存在となり、現在のような介入ができなくなることもある。中国国有の独占企業や、中国が支配する経済同盟が世界市場をコントロールし、世界最強の軍事同盟も、北京が統括するようになるだろう。……」



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



これだけを読むとかなり極端な偏った世界を描いているようにも思える。これはあくまでもアメリカ国内に対する警告のために書かれたような本である。

現在のトランプ大統領の下のアメリカを見てみると、中国のことは言ってもらえない事態に陥ろうとしているのではないだろうか。自国優先主義、ナショナリズムが台頭し、人種間差別、衝突が発生している。これまで世界を覇権してきたアメリカは、その驕りのために自国の深い問題に気付かなかったように思える。

中国共産党大会

さて、10月18日から始まっている5年に1度の中国共産党大会。習近平が自身の権力をより強固にし、中国の夢を叶えるべくその意志を世界に発信している。大会の冒頭で習近平は3時間半にも及ぶ演説を行った。この内容を見るとこの本に記されていることの真実味が増してくる。

中国はまさに夢を実現するための戦いをを行っているのである。

その強い意志はまず、党大会のテーマに表わされている。

【党大会のテーマ】初心を忘れず使命を胸に刻み、「小康社会(ややゆとりのある社会)」の全面的完成の決戦に勝利し、新時代の**中国の特色ある社会主義の偉大な勝利を勝ち取る。中華民族の偉大な復興という中国の夢の実現に向けたゆまず奮闘する。**

まさに戦いである。そして、その戦いに勝つためには、古来の共産党の考えを継承し、それに反対することは一切許されないとしている。

【党の歴史的使命】1921年に党が誕生し**中国人民の闘争**に大黒柱が生まれた。今や中華民族の偉大な復興に近づき、**これまで以上の自信と能力を持っている**。全党は党の指導と社会主義制度を堅持し、**否定する一切の言動に断固反対しなければならない**。

「新時代の中国の特色ある社会主義」はマルクス・レーニン主義、毛沢東思想、鄧小平理論、(江沢民元総書記が掲げた)「3つの代表」重要思想、科学的発展観を継承し発展させたもの。全党が中華民族の偉大な復興の実現へ奮闘する上での行動指針で、長期にわたり堅持しなければならない。

小康社会の完成を土台に、今世紀半ばまでに2段階に分けて富強、民主や文明の調和が美しい「社会主義現代化強国」を築き上げると明確にする。

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。



Market Flash

～世界覇権100年戦略～

China 2049



【党の指導を徹底】党、政、軍、民、学などの各方面や全国各地について、党はすべての活動を指導する。政治意識や核心意識などを堅持し、党の指導の堅持のための体制・仕組みをより完全に
する。

習近平は今回の演説で、夢の実現までの行程を示した。まさに100年マラソンの行程である。

【発展の時間軸】党の創立100周年(2021年)には民主や生活などが幅広く進歩した**小康社会を完成させ**、さらに**新中国成立100周年(共産党政権成立から、49年)**までに現代化を基本的
に実現。社会主義現代化国家を築き上げる目標である。

第1段階の20～35年には経済や科学技術で革新型国家の上位に上り詰め、文化的ソフトパワーが強まり中華文化の影響力が広く、深く強まる。中所得層の割合が増え都市・農村間や地域間の発展や生活格差が著しく縮小する。生態環境も改善し、「美しい中国」の目標が基本的に達成される。

第2段階の35年から今世紀半ばには、**社会主義現代化強国**を築き上げる。物質、政治、精神、社会、生態文明が向上し、トップレベルの総合国力と国際的影響力を有する国になる。**中華民族は世界の諸民族のなかにそびえ立っているであろう。**

なかなか日本では聞くことのできない口調である。

対外的には、

【外交】世界が直面する不安定性は際立っている。一心同体となって**貿易と投資の自由化**などに進むべきである。中国は**公正・正義などを旨とする新型国際関係の構築を推進**し、他国の内政に干渉し、強い者が弱い者をいじめることに反対する。ただし**正当な国益は放棄しない。いかなる者も中国の利益を損ねる苦い果実を飲み込ませよう**などという幻想は抱かない方がいい。

中国はどれほど発展しても**永遠に覇権を唱えず、拡張もしない**。引き続き責任ある大国としての役割を果たしていく。

国内に対しては強いメッセージを与える反面、対外的には刺激しないような口調となっているが、『根底にあるのは、中国国益に反するものは一切排除するという強い意志があることを忘れてはならないであろう。』

* 本資料は投資判断となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘及び保険勧誘を目的として作成したものではありません。本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。